

記者発表：高松経済記者クラブ
徳島県政記者クラブ

平成28年5月16日
四国地方整備局
高松港湾空港技術調査事務所
小松島港湾・空港整備事務所

撫養港海岸 浮体式防潮堤の浮上性能確認試験を実施 ～車両（重量物）を載せて浮上させます～ （報道関係者向けに公開）

小松島港湾・空港整備事務所では、撫養港海岸（鳴門市）において、南海トラフを震源域とする地震による津波から、人口が集中している中心エリアや公共施設を守ることを目的として、老朽化した堤防の嵩上げ、陸閘の電動化や自動化を実施しています。

今般、津波や高潮発生時に浮力によって扉体が起立する、無人力で自然の力を利用して陸閘を閉鎖できる画期的な方式の浮体式防潮堤【フラップゲート】の設置が完了したことから、現地において工事完成検査の一環として、起動確認を実施することとしました。

また、高松港湾空港技術調査事務所では、この無人化による新タイプの陸閘を確実に機能させるため、想定されるリスクや今後の日常的に管理していくうえで有用となる試験を下記のとおり実施します。

なお、車両（重量物）を載せて浮上確認を行うなどの各種試験を実施するのは、今回が初めての例となります。

記

1. 日時 平成28年5月23日（月）13：30 集合、14：00 注水開始
2. 場所 徳島県鳴門市撫養町大桑島字^{すべりいわはま}津岩浜（大塚倉庫付近） …資料3
3. 内容 水張りによる大型浮体式防潮堤（幅約8m×高さ約2m）の浮上確認
[予定：重量物積載状態での浮上確認など …資料1、2]
4. 参加予定者 地元小学生、地元関係者、学識経験者 他
5. 取材申込手続き 浮上確認試験の状況を報道関係者向けに公開します。
取材を希望される方は、平成28年5月20日（金）17時まで
に、別紙申込書を事前に送付ください。

※本施策は、四国圏広域地方計画【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。

[問い合わせ先]

国土交通省 四国地方整備局

高松港湾空港技術調査事務所 TEL：087-811-5661、FAX：087-811-5670

副所長 小泉 勝彦、調査課長 立脇 和則

小松島港湾・空港整備事務所 TEL：0885-32-3357、FAX：0885-35-0010

副所長 新見 泰之、沿岸防災対策官 大野 誠彦

昭和南海地震から70年

今年は、1946年12月21日の昭和南海地震発生後70年目にあたります。四国地方も昭和南海地震により、甚大な地震・津波被害を受けました。

四国地方整備局では、地域の皆様に、津波防災対策やその重要性について一層の理解を深めて頂く観点から、平成28年度は年間を通じて、津波対策に関する講演会その他行事の開催の機会に、昭和南海地震について改めて紹介していく予定です。

高松港湾空港技術調査事務所 宛

FAX: 087-811-5670

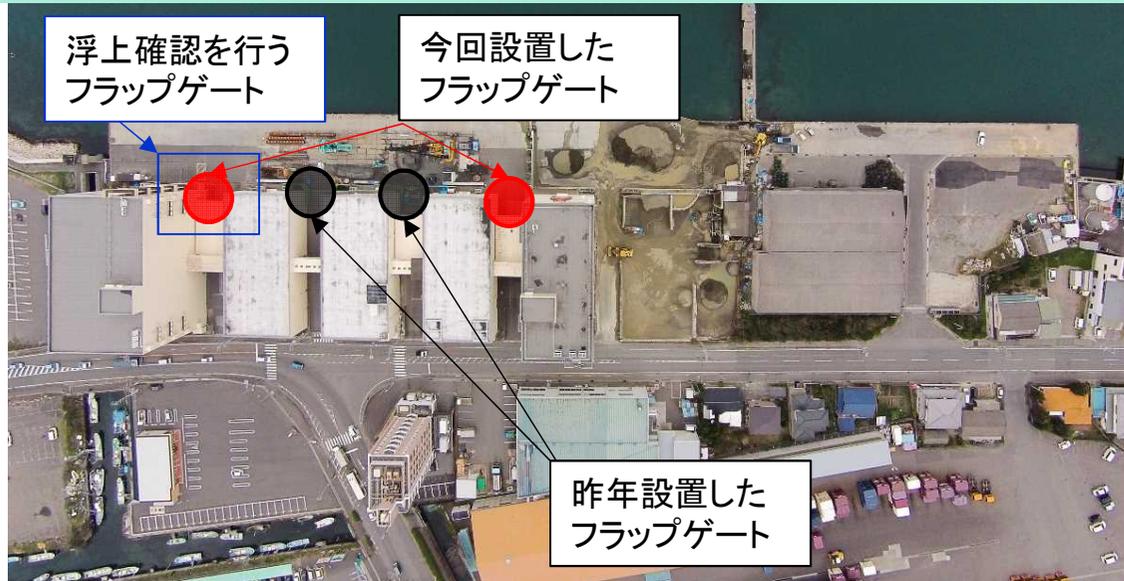
撫養港海岸浮体式防潮堤 浮上性能確認試験
取材申込書

貴社名		
連絡先	TEL:	FAX:
代表者		
	所属	氏名

撫養港海岸事業の陸閘について

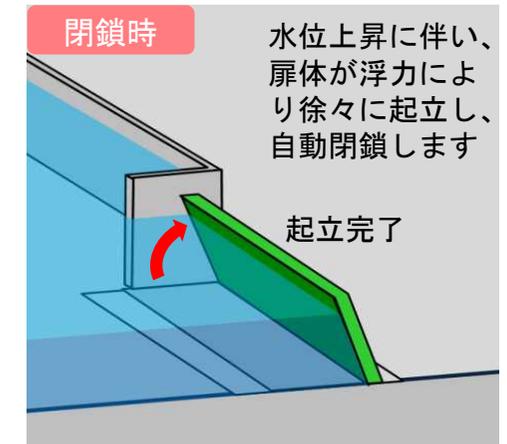
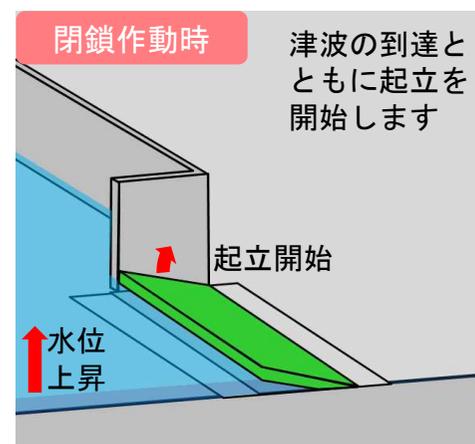
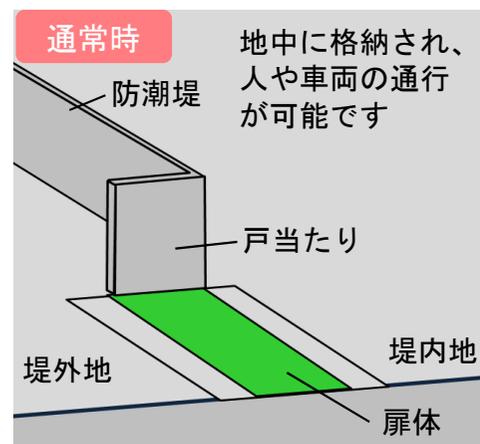
○東日本大震災において、陸閘の閉鎖操作に向かった多くの方が犠牲となったことを教訓にし、閉鎖作業に多くの労力と時間が掛かる大型の陸閘については操作員の安全を最優先とし、電動化や自動化を実施しています。

大型浮体式防潮堤【フラップゲート】の概要



昨年設置したフラップゲートの起動確認の様子

フラップゲートのイメージ



フラップゲート 現場確認試験の概要

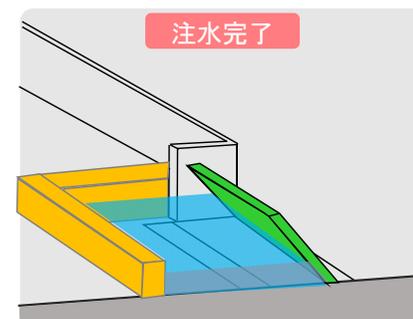
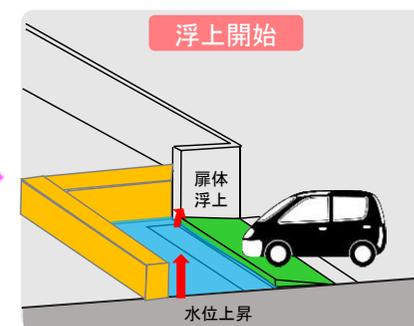
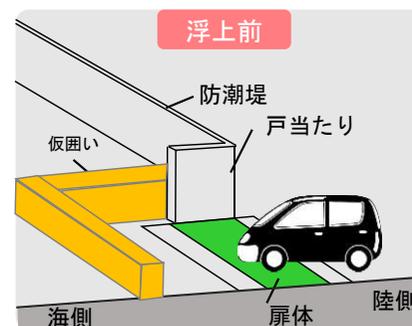
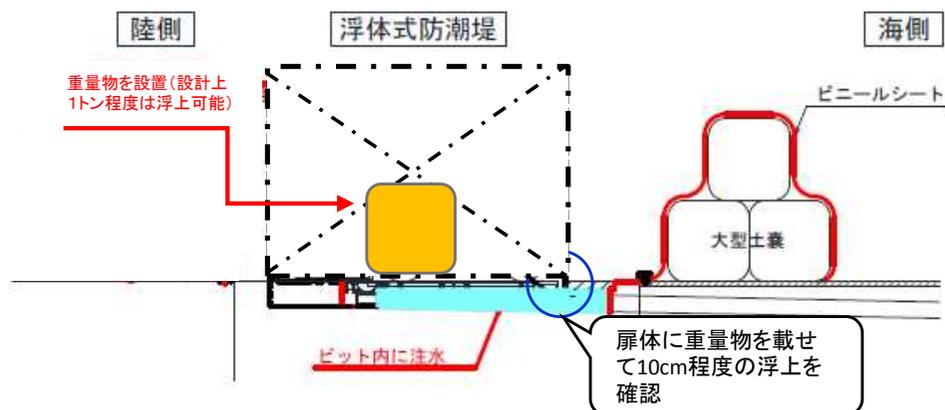
○フラップゲートは、現時点で施工された実績が少なく、継続的な維持管理が行われた事例がありません。そのことから、施工が完了した後の性能確認はもとより、「維持管理において注意すべきポイント」、「起立阻害要因によりどの程度起立性能が低下するか」を実機で確認することで、今後の維持管理に活用していくことを目的に実施します。

予定している現場確認試験の内容(イメージ)

載荷試験

扉体に重量物を載荷した状態での浮上開始水深の確認を行う。

→障害物や違法駐車を想定し、その対応策に活用していく



車両を後退させ、引き続き注水



撫養港海岸フラップゲート写真



※写真は、昨年10月に設置したフラップゲート